

全国学力・学習状況調査結果の分析

5月27日（木）に行われました「全国学力・学習状況調査」（小6対象）について、本校の結果から校内で分析した内容についてお知らせします。

【国語】

「読むこと」「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の3つの領域において正答率が高くなっており、言語の知識、文章を読み取る能力が高いと言えます。これは、朝読書の取組や読書貯金の取り組み等により、子どもたちの読書への関心が高まっている成果だと考えます。

「話すこと・聞くこと」の記述において低い結果となっており、自分の伝えたいことを表現することに対して苦手意識をもっていると考えられます。その手立てとして、普段の授業から発表や説明、紹介等の活動を充実させ、伝えたいことを的確に捉える能力を身に付けられるよう取り組んでいきます。

【算数】

「数と計算」「図形」「データの活用」の領域において正答率が高くなっています。特に作業的な活動を必要とする図形の問題や、数の捉え方、正確に計算することに優れていると言えます。これは、朝のドリルタイムの活用や好学チャレンジなど、練習問題に粘り強く取り組んだ成果だと言えます。

「変化と関係」の領域では、他の領域に比べやや劣っています。単位量当たりの大きさの意味や表し方、そして、その大きさを比べることに対する理解の定着が図れていないと考えられます。その改善を図る手立てとして、理解を深めるためには、授業の中で式や図、具体物、言葉などを使う自力解決の時間を確保することや考えを広げるために発表の機会や話し合い活動を充実させていきます。また、ドリルタイムや授業時間内で復習する時間を設け、理解の定着を図っていきます。